

新潟県の大学

小東由男

はじめに

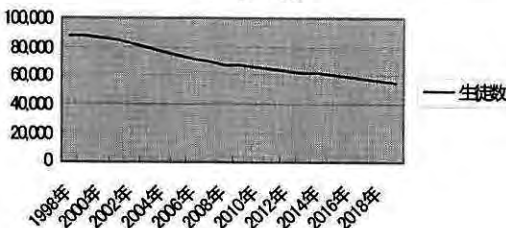
1998年『いがたの教育情報』第53号で「新潟県の大学と地域」を特集した。この特集では、「少子化」や「大学の教育改革」をはじめとする諸問題の下、県内の国公、私立の大学・短大の実情を探った。

あれから22年間に過ぎた。大学の実情は、どの様に変化したのだろうか。その当時に指摘された「少子化」や「大学の教育改革」は、相変わらず大きな影響を与え続けている。そこで、まず始めにこれら2つの状況を概観したい。

1 少子化

1998年の高等学校生徒数は、86564人だったが、2019年の生徒数は、55030人だった⁽¹⁾。38%の大幅減となっている。大学への進学率が徐々に高くなっている(2019年は、47.6%)とは言え、入学生の確保は大変だろうと思われる。2019年の大学進学者の6割は、県外に進学していて、3986人が県内の大学等に入学し

生徒数



た。県外からの入学者や外国からの留学生を獲得することも大きな柱となっている。

2 大学の教育改革

日本では1969年の「行政機関の職員の定員に関する法律」によつて国家公務員の定員削減が進められ、2000年には「定員25%減」という目標が閣議決定された（森首相）。このような大幅削減を実現するために、郵政公社職員と国立大学教職員が「非公務員」となることが決められた。そして、2004年に国立大学が独立行政法人化、2006年には郵政が民営化された（小泉首相）。この「国立大学法人」形態により、大学の財政責任を政府から切り離れた。そして、政府は大学の運営にかかわる経費の一部を交付金として補助するだけの形にした。さらに、その交付金は独立以降、毎年1%がほぼ機械的に削減されてきている。2004年と2015年を比較すると、「一般」97億85億円、「特別」741億円が、それぞれ9020億円、1028億円となり、合計額で478億円の減額となった。現在の多くの国立大学の財政状況は、教職員の給料支払いにも支障がでるレベルで、定年退職

した教員の後任補充を停止している大学がかなり増えている。研究環境の悪化や学費値上げの一因になっている。

さらに、2014年6月には学校教育法を改正し、教授会の権限を法的に限定し、学長や学部長の諮問機関とされ、その審議事項も教育と研究にかかわることに限定された。この学校教育法は私立大学にも適用されるので、この改正後文科省は全ての大学に対して、法律が認める以上の権限を教授会に与えるような内部規則を持つていかどうかをチェックし、強く指導した。つまり、学長のリーダーシップの下、専制的な運営が進められる土壌を造ったのだ。

新潟大学では、2015年10月、教育学部教授会の意向を無視して「新課程および教育学研究科修士課程の2017年度募集停止」を宣言した。また、2016年2月3日には、「国からの運営費交付金の減少に対応するため人件費を抑制する異例の措置として教育人事凍結」を宣言するなど、強引な運営が続き、学部教授会や教職員組合から反発の声があがり、改善を求められた²⁾。

3 新潟県内の大学変遷

(1998年頃と比較して)

1998年 2019年

四年制大学

11校(国立3校、私立8校) 19校(国立3校、県立2

校、市立1校、私立13校)

大学院大学1校は変わらず。(国際大学)

短期大学

8校 5校(私立5校)

大学は8校増えた。その多くは既存の短期大学が四年制大学に改組したものを。

・新潟県立女子短期大学 ↓ 新潟県立大学

・新潟県立看護短期大学 ↓ 県立看護大学

・青陵女子短期大学 ↓ 新潟青陵大学

・長岡短期大学 ↓ 長岡大学

・新設開学もなされた。

・新潟医療福祉大学

・新潟リハビリテーション大学

・新潟食料農業大学

・長岡崇徳大学

一方、各種学校の旧中条町にあったサザンイリノイ大学新潟校は、廃校となった。

医療関係の開校が続き、地域市町村、中小企業、地場産業のニーズや大学進学率向上の施策と連動したものととなっている。

また、既存の大学では学部の構成を改変したり、新設したりしてきている。

一例 新潟薬科大学 応用生命科学部を新設した。

短期大学は3校減った。四年制大学へ改組したためだ。また、新潟青陵女子短期大学は、新潟青陵大学短期大学部となり、共学となった。

その結果、単年度学年の定員は、大学が、7004人(国立2482人、公立585人、私立3207人)、短期大学が730人となった。

主な大学の県内出身者の割合は、

・新潟大 42% ・長岡技科大 70%

・上科大 35% ・県看大 81%

・県立大 59% ・日本薬科大 57%

・敬和学園大 88% ・新潟工科大 64%

・新潟青陵大 98% 医療福祉大 60%

大学の種別（国公立・私立）、学部や設立の経緯によつて、占有率の高低が生じているようだ^③。

学費について、入学金を含めた初年度納入で概観してみると、国立は81万円余。県立は、109万円余。私立文系は120万円弱。私立理系は120万円超え。私立医療技術系は、150万円〜200万円が多い。私立薬学は、240万円余。私立歯科は、500万円超えだった。実習の内容により、金額も様々だ^④。

4 改組、開学に向けた取組

新潟青陵大学

2年課程看護師養成を目的として市民病院が看護教育実習先として協力することや新潟県の大学進学率向上を目的とした大学新設補助金（新潟県及び地方市町村が3分の1ずつ）制度の存在もあった。そして、平成12年（2000年）、新潟大学医学部保健学科と同時に四年制看護系大学として開学した^⑤。

新潟食料農業大学

大学案内2019年版では、

『食』の総合大学を目指してこの大学では『食』

『農』『ビジネス』を一体的に学ぶことができます。……

新潟食料農業大学は、このフードチェーン全体をカバーする産業である食料産業を研究する「食料産業学部」を核として、世界のフードチェーンを牽引するフロンランナーとしての高等教育機関になることを目指していきます。……と、大学の目指す方向性を提示している^⑥。2018年に新設開学した。

5 教育環境整備と就職サポート体制

各校、授業や実習形態に合わせて、学費を設定している。県立の2つの大学では、新潟県民の入学料を半額（28万2千円）にしている。支援を必要としている学生には、学校独自の奨学制度（特待生を含む）を用意している大学がほとんどだ。

また、卒業・就学を見越したインターンシップ教育や就職ガイダンスを設けていて、進学ガイドブックや大学案内には、「就職率〇%」と標記して就労実績のアピールに余念がない。また、卒業までに取得できる資格や主な就職先を例示している。さらに、グローバル人材の育成の立場で海外への視察、海外大学と連携した交換留学など、留学制度を充実している大学もある。

おわりに

新型コロナウイルスの感染対策のため、年度末・新年度始め、休校が相次いだ。感染を防ぎながら研究と教育体制を新たに構築しなければならぬ事態がうまれている。また、学費や生活費をまかなうためアルバイトをしている学生にとつて、勤め先の休業などで収入の道がたたれている状況だ。集中して勉学に励む状態に回復するため、国や県、大学からの援助が欠かせない。将来を担う若者達への勉学環境整備の支援は、喫緊の課題である。

【注】

- 〔1〕教育統計の年次推移〔児童・生徒数〕
<https://www.w.pref.niigata.lg.jp/sec/kyoikusunomu/192637546>
[28.html](https://www.w.pref.niigata.lg.jp/sec/kyoikusunomu/192637546)「高等学校」より
- 〔2〕募集停止に関しては、「消えてゆく学びの場」学生が視た大学改革」(『にいがたの教育情報 第122号』)にて詳報。また、2016年7月には、新潟大学運営の問題点を県民と話し合う「大学問題セミナー」が開催されている。

- 〔3〕2019年の調査『令和元年度教育調査資料第3集 大学等進学状況調査報告書』(新潟県教育委員会)の第8表 「県内大学・短期大学の入学志願者数、合格者数、入学者数」より。

- 〔4〕『大学・短期大学進学ガイドブック2019年版』(新潟県総務管理部 大学・私学振興課)より。

- 〔5〕『新潟青陵大学のすがた』(開学10年の軌跡)『2010年4月発行』より。

- 〔6〕『新潟食料農業大学 大学案内 2019年版』の渡辺学長の挨拶文より。

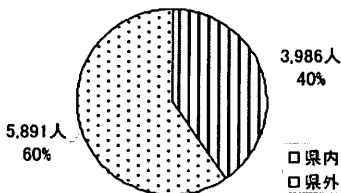
【資料】

第16表2 卒業学科別・

県内県外進学状況

- 2019年の調査「令和元年度教育調査資料第3集 大学等進学状況調査報告書」(新潟県教育委員会)より。

県内県外進学先割合



新潟県内大学等高等教育機関一覧表

新潟県内大学等高等教育機関一覧表

をもちに、一部追加)
 『大学・短期大学進学ガイドブック2019年版』

種別	名称	開学年	所在地
国立	1 新潟大学	1948年	新潟市西・中央区
	2 長岡技術科学大学	1976年	長岡市
	3 上越教育大学	1978年	上越市
県立	4 新潟県立看護大学	2002年	上越市
	5 新潟県立大学	2009年	新潟市東区
市立	6 長岡造形大学	1994年	長岡市
私立	7 日本歯科大学 新潟生命歯学部	1972年	新潟市中央区
	8 新潟薬科大学	1977年	新潟市秋葉区
	9 新潟産業大学	1988年	柏崎市
	10 敬和学園大学	1991年	新発田市
	11 新潟国際情報大学	1991年	新潟市西区
	12 新潟経営大学	1991年	加茂市
	13 新潟工科大学	1995年	柏崎市
	14 新潟青陵大学	2000年	新潟市中央区
	15 長岡大学	2001年	長岡市
	16 新潟医療福祉大学	2001年	新潟市北区
	17 新潟リハビリテーション大学	2010年	村上市
	18 新潟食料農業大学	2018年	新潟市北区・胎内市
	19 長岡崇徳大学	2019年	長岡市
短期大学	20 新潟青陵大学短期大学部	1965年	新潟市中央区
	21 新潟工業短期大学	1968年	新潟市西区
	22 新潟中央短期大学	1968年	加茂市
	23 日本歯科大学 新潟短期大学	1972年	新潟市中央区
	24 明倫短期大学	1997年	新潟市西区

『大学・短期大学 進学ガイドブック 2019年版』(新潟県総務管理課)より

県内・県外別進学状況(進学者総数計)

県内・県外別進学状況(進学者総数計)
 過年度生を含めた進学先の集計

『大学等進学状況調査報告書 令和元年度版』より)

	大学			
	計	国立	公立	私立
	8,877	2,067	642	6,168
県内	3,377	1,026	276	2,075
県外	5,550	1,041	366	4,093
	短期大学			
	計	国立	公立	私立
	836	3	83	750
県内	549	1	0	548
県外	287	2	83	202
	通信	別科	看護専攻科	
	102	2	60	
県内	0	0	0	
県外	102	2	0	

総合計	9,877
県内	3,986
県外	5,891

(こひがし よしお・所員)